

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月9日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102014		
法人名	医療法人社団青冥会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム第三若葉荘		
所在地	高松市上林町882番地1 (電話)087-815-5010		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年5月8日	評価決定日	平成20年6月9日

【情報提供票より】平成20年4月23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年10月25日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤 8人 非常勤 9人 常勤換算	16.1人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り 1階建ての1階部分
------	--------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,650円	その他の経費(月額)	約10,000円
敷金	有()円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300円		

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	8名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.8歳	最低	56歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団青冥会	ミタニ藤田病院	松之内歯科医院
---------	-----------	---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「一人ひとりの個性を伸ばし、明るく笑顔の絶えない日常生活を援助する」というホームの理念のもとで、支援がされていることが、利用者のいきいきとした表情からうかがうことができる。ホームは玄関をはさんで一ユニットずつ配置されているが、中央にスタッフルームがあるため、スタッフが双方のユニットを見守ることができる構造となっている。スタッフが連携して支援を行うことで、利用者の生活リズムやペースにあったサービスが提供できている。
介護記録は書きやすく誰もが見やすいように工夫しており、その記録が介護計画に活かせるようになっており、利用者の生活にそったものとなっている。家族の面会が多くみられ外出も多い。自由に行き来できる関係であることがわかる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、理念、地域との付き合い、市町村との連携、職員を育てる仕組み、外出支援などで改善点がみられたが、理念はスタッフ全員でホーム独自の理念を作りあげたり、介護実技の講習を行い実践に役立つ研修を計画するなど、評価の改善課題を前向きに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を踏まえ改善点を、スタッフ全員で前向きに取り組んでいる。今後は、自己評価をスタッフ全員で取り組んでいくことで、サービスの向上に活かすことが望まれる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、利用者の現状報告や地域・家族とのかかわりを報告し、地域とのかかわりについて、地域の方、市・地域包括支援センターの方だけでなく、家族・本人も参加し協議を行っている。運営推進会議での話し合いをスタッフ間で報告し、今後の運営に活かす努力をしている。運営推進会議以外でも、市との連携を図っていく事が今後の課題である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会の際に、家族に日常生活の様子や健康状態を報告している。面会に訪れることのできない家族にも、2か月に一度は日常の生活を伝えるために、金銭報告や若葉便り、担当からの手紙を届けるようにしている。意見・苦情などは玄関にあるご意見箱に入ることはほとんどなく、直接、面会時にお話をうかがうことが多い。ご家族からの意見は記録し、スタッフ間で共有し、運営に活かしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは地域との連携を図るために、運営推進会議で協議を行ったり、さまざまな取り組みを企画し、参加の呼びかけを行うなど努力をしている。散歩の際に挨拶をしたり、季節の花を見せていただいたりすることで、少しづつ繋がりができてきている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	同法人若葉荘での理念に加え、第三若葉荘で独自の理念がある。理念はスタッフ全員で考えたものである。地域密着型サービスの意義や役割は、スタッフの中で理解がされているが、それが理念に反映されるまでには至っていない。	○	今までの理念に加え、ホームの利用者も「地域でのその人らしい生活」を行なっていることを、理念に加えることで、日々の取り組みにより活かされることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関やスタッフルームなどに掲げられ、スタッフがその理念のもと利用者への支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	消防訓練の案内など自治会に働きかけを行い、地域との交流をおこなうよう努力している。近隣の方々とは散歩や季節の花の観賞などを通して、地元の方々との交流が広がってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価を実施することの意義については、スタッフ全員が理解されている。前回の評価を踏まえスタッフ全員で、理念の見直しや運営推進会議での意見に対する取り組みなど、改善に向けて努力されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を実施し、市町村や地域包括支援センター、地域の方、家族、利用者が参加している。ホームの居間で行っており、ホームでの生活を理解していただける機会にもなっている。会議の際に出た意見についてスタッフ間で話し合いを行い、ホームの運営に活かすよう努力されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には参加していただき、意見を参考にホームの運営に活かすようにしているが、その他には、相談をすればアドバイスをもらうことはできている。	○	相談をし、アドバイスをもらう関係ができてはいるが、普段からのかかわりは十分とはいえない。地域での取り組みを行なう都度、報告や相談をしていくことで、支援の取り組みが広がることを期待したい。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との連絡ノートがあり、面会の際の報告内容や、やりとりを記録するようにしている。また、2か月に一度、出納帳や領収書のコピー、担当スタッフからの手紙を送付するようにしている。自由に面会できる環境にもなっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置があるが、意見箱に不満や苦情は入れず、家族はスタッフに直接、話ができる関係となっている。意見をいただいた時には記録し、その都度話し合いをもち改善するための取り組みを行なっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内に施設やホームがある。異動の際には、利用者やご家族の方、スタッフへ引継ぎを行い、利用者のダメージを最小限に抑える努力はしているが、管理者をはじめ職員の異動は多い。	○	職員の異動の際の引継ぎはしっかり行なわれているが、ホームでは「馴染みの関係」をつくるのが認知症症状の進行を遅らせることにもつながるので、異動等を最小限に抑える工夫をすることが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で介護技術の研修を行っている。各ホームで3名程度の参加とはなっている。その研修は、ホームでの業務に活かせる内容となっており、参加していない職員へは業務のなかで周知ができる。口腔ケアやケアプラン作成の研修などもあり、復命書で周知をしている。資格取得にも積極的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では交流の機会も多く、連携が十分に図れているが、地域の同業者と行き来する機会はほとんどない。交流は個人でのつながりのみとなっている。	○	マニュアルの整備や新しい取り組みなどを行なっている。他のホームを訪問することで、サービスの向上にもつながることを期待したい。また、職員間の交流や利用者の外出の機会になるなど、交流が相互のホームにとって刺激となっていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急時の入所相談が多く、その際には管理者が家族から話を聴き、面談を行なっている。早急な対応により入所した場合は、利用者が理解し納得できるような対応に努めている。また、家族とも相談しながら、他の利用者と同様ような雰囲気づくりに配慮している。	○	入居が決定した時点で、何回かホームを訪問できるような仕組みを取ったり、入所後には家族の面会が多く行なってもらえるような、支援体制をつくることが望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は季節の飾り付けなどをよく知っており、スタッフは利用者から学ぶことも多い。お互いが率直に話し合える関係ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援のなかで、利用者の思いを聴き取り、スタッフが共有できるように記録し、思いや希望をくみ取るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族に希望を聴き取り、スタッフ間で意見交換やカンファレンスを行い、ケアプランに活かしている。日々の記録もケアプランに連動したものになっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度の定期的な見直しのほか、入院や症状の変化に応じて見直しを行なっている。介護申請の際にも見直しを行い、現状に合わせた支援ができるように作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの利用者は、法人内の病院だけではなく、希望の病院を利用したり、理容では希望の美容院に出かけたり、来ていただいたりして個々の満足を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の病院のほかに、希望の病院において、治療を受けることができるように支援している。希望病院の通院は家族が行なうようになっているが、必要に応じて通院介助もしている。月一度歯科医の往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の健康状態に変化が生じた時には、医師や家族との話し合いの機会をつくっている。しかし、終末に関する対応指針などは決まっておらず、その都度臨機応変に対応するようにしている。	○	重度化や終末期の対応は、個々に応じて臨機応変に対応している。今後、重度化した場合の対応として、早い時期からの話し合いの機会を設け、関係者の意思の疎通を図ることが望まれる。そのためにも対応指針などを作成をしていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損なうような、言葉かけや対応は見られない。個人情報の取り扱いも留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の一日のスケジュールは決まっているが、個々に合わせたケアプランが立案されている。入浴時間や外出などその日の利用者の希望に沿った支援もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食材の準備は、法人内のホームで一括で行なわれているが、行事の際にはメニューの変更を行うことも可能で、臨機応変に対応できている。食事の準備や片付けを利用者と共に行なうことができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日行なえるようになっている。利用者は週2回は必ず入るように支援しているが、希望があれば、夜間にも対応できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事のメニューを書く、洗濯物をたたむ、テーブルを拭く、掃除をするなど、それぞれが自主的に取り組むことができている。車椅子の方も他の利用者の方に、話しかけに行くなど誰もが役割をもって楽しく過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の外気浴やホーム周辺の散歩を行い、利用者の気分転換や、地域の方との交流を図っている。買物、外出、レクリエーションにも積極的に取り組む努力をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、通常、玄関の鍵はかかっておらず、自由に行き来できるようになっている。しかし、スタッフ数が少なく落ち着きのない利用者がある時には、仕方なく鍵をかけることもあるが、鍵をかけない努力が日々行われている。スタッフルームの前が玄関となっており、家族や業者など外部からの訪問者の把握もしやすい。夜間は防犯上のこともあり鍵はしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行なっている。そのうち1回は消防署に来てもらい訓練を実施した。緊急時のマニュアルなども完備している。地域の方にも消防署を招いての訓練には案内している。	○	近くに川もあり、台風時の水害の可能性もある。また、地震などの災害の可能性もあるため、対応マニュアルの整備が望まれる。災害時のために、食料が備蓄されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連法人の栄養士がメニューをつくっている。ホーム内にも栄養士がおり、個人の健康状態にあわせた食事の工夫をしている。食事量は全員の摂取量が把握できるように記録している。水分量は、健康状態に応じて必要な方のみ記録をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広く誰もが過ごしやすいうように、季節の飾りやレクリエーションで作成したものを飾っている。天井も高く、光も入りやすいため居心地がよく、利用者のほとんどが、居間に出てきて自由に過ごしている。平屋作りとなっており、ユニットに関係なく自由に行き来できるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと箆笥はホームで統一されたものであるが、各自の部屋には使い慣れたものや、馴染みのものがおかれている。また、家族の写真やレクリエーションで作成したものを飾っており、暮らしやすく馴染みやすい空間となっている。		